

＜補足事項追加＞ P3

(8) (骨髄バンクにおける)非血縁者間提供ドナーの健康被害について

急性C型肝炎を発症した事例

2011年4月、骨髄採取後の非血縁骨髄ドナーが急性C型肝炎を発症しました。

【経緯】

骨髄提供の3週間後にフォローアップ終了されていましたが、約40日後に体調不良を訴えられ、検査の結果、急性C型肝炎と診断されました。感染経路等は現時点では不明で、調査を進めているところです。

【対策】

当財団では調査委員会を設置し、原因究明と再発防止の観点から、感染経路の調査や関係者への対応を進めてまいります。

また、全国の採取施設に対し「緊急安全情報」を発出しました。

(2011年4月)